

「県政ガイドあいち 2024」表紙デザイン審査会講評

総評

伊藤 勇吉 審査員

本年度も、たくさんの作品が集まりとても楽しく、興味あふれる審査となりました。ただ、全体に似通った作品が多く愛知県をどのように表現するかの難しさが伺われます。その中でも個性が光る作品が選ばれました。今後、新しい切り口でもう少し思い切った作品があっても良いのかなと思われま

田中 篤至 審査員

例年と同じく、愛知県を代表する食べ物や風景、歴史をあしらった「郷土愛」を感じさせる作品が並びました。名古屋城やシャチホコなど、ディテールが決まっているデザインをいかに独創的にアレンジしているか、などを審査対象にしました。このほか、シンプルで大胆な構図や、人物を取り入れた作品も独創的であると考え、高く評価しました。今回は受賞には至りませんでした。力作ぞろいでした。気になったのは、完成後に入るロゴについて、考慮していない作品があったこと。さまざまな視点を持ちながら、デザインしてください。

和 祐里 審査員

応募作品を一覧で並べた際、モチーフや表現が似たものが多い印象でした。愛知県のことを知り、学び、可視化する際、他の人とは異なる自分だけの表現をいかに魅せるかということ意識して制作してほしいと思います。

グランプリ作品講評

伊藤 勇吉 審査員

今回グランプリの作品は、他の作品とは表現方法が違いピクトグラム的な表現で愛知県を表している表紙となりました。パンフレットの表紙としては、とても目を引き印象的なデザインです。グランプリにふさわしい作品だと思われま

田中 篤至 審査員

愛知県の「名物」をドット画にして、レトロ感のあるCGにしました。ドット画は輪郭がはっきりせず、よく見ないと判別できないデザインもあるのですが、「これはなんだろう？」と見たものに考えさせる効果もあります。名物以外の文字、地図ともドット画で表現することで、表紙全体が一体感のあるデザインになりました。背景はシンプルな単色と白い水玉。CGが浮き出るように見える効果があります。

和 祐里 審査員

グランプリに関しては、冊子が配布された風景を想像し、様々な情報誌が並んだ中でも目を惹く仕上がりになっている点を評価しました。